



見える・知る・わかる・かわる社会

グループ名：スマート

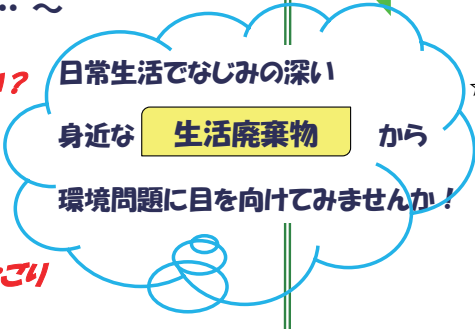
メンバー：百合草 正己、荒巻 道洋、加納 壮浩、平松 朋寛

チューター：隈部 和弘、加藤 文佳、谷川 寛樹

現状の把握(課題認識)

～ 環境問題って… ～

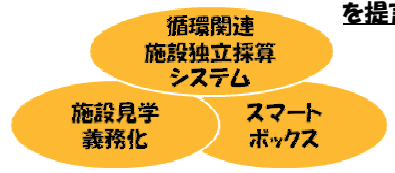
- ◆ 情報が多すぎて
⇒ **何が正しいかわからない?**
- ◆ 指標は示すが
⇒ **実行力と認知力が低い!**
- ◆ 関心を示す人はいるが
⇒ **マニアが多い!**
- ◆ 知りたいことは
⇒ **調べればわかるというおごり!**
- ◆ 共通の理解をする
⇒ **機会・きっかけがない!**



2030年に向けての提言の概要

～ きっかけを通じて「わかる」「かわる」社会へ～

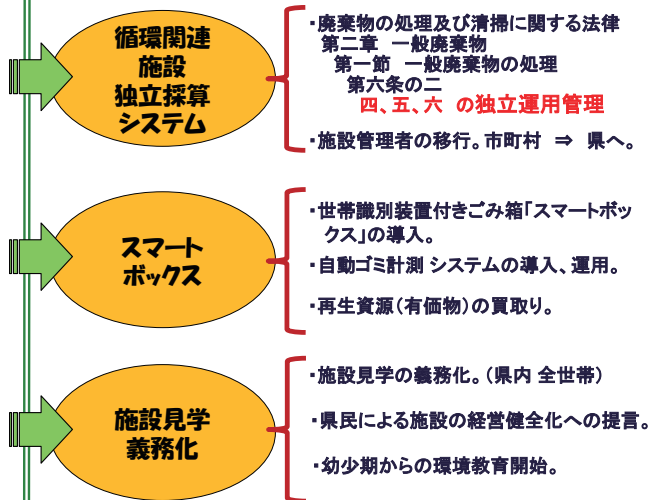
☆生活廃棄物について3つの項目を柱とした自然循環社会システム再生に向けて現状の認識～環境負荷低減行動への誘導・意識付け・意識向上に繋がる仕組みを提言する



提案の内容

- ◆ 見える化・効率化
廃棄物・資源の「収集から処分まで」施設管理を県内で一括管理する。また、施設建設費、維持運用費用を明確にし、採算収支を合わせて明確にし経営の透明化を行う。
- ◆ 自己責任意識の向上
家庭より排出される廃棄物・資源の種類、量、行先、費用を従来のゴミ袋に変わる「スマートボックス」で自動計測し積算する。再生資源は買取られ、処理費用と相殺され請求される。
- ◆ 廃棄物・環境課題への意識向上
家族みんなで「資源処理・循環施設」を定期的に見学する。環境問題に関心の無い方・幼少期からの体験・機会提供を通じて現状への関心を高めて行く。また、施設現場のチェックも併せて行う。

提案実現のための具体的な取り組み(アクションプラン)と実現可能性



波及効果

廃棄物処理の
明確化・効率化

ごみの減量

環境課題への
意識向上

- 独立採算システム: 県内にある市町村管理の施設の経理効率化による環境費の削減、ごみ排出量削減。
- スマートボックス: 再生資源買取りによる可燃ごみ・不燃ごみの減少、処理費用の公共料金的発想への誘導。
- 施設見学義務化: 環境課題への関心を広く認識できる環境の普及。施設の経営品質向上。